

北東アジア学会・立命館大学アジア・日本研究所共催
特別ワークショップ開催要項

1. 本ワークショップは、第24回北東アジア学会学術研究大会「北東アジア地域協力の新段階構築に向けて」の二日目に予定されていた研究発表および分科会G「朝鮮半島をめぐる国際関係」が台風によって実施できなかったことから、関係各位のご理解と協力を得て準備されていた趣旨と内容を踏まえて改めて開催の運びとなったものである。
2. 日時：2018年11月23日 14時40分～17時50分
3. 場所：立命館大学朱雀キャンパス 217
4. プログラム
第1部：個別発表（14時40分～16時10分）
発表1：宋基栄（ソン・ギヨン、立命館大学非常勤講師）
「北朝鮮におけるスポーツの政治的活用に関する研究—金正恩時代を中心に—」
発表2：馬場一輝（立命館大学・院）
「2002年小泉総理・ケリー国務次官補の2つの訪朝の連関性—2レベル・ゲームによる日朝交渉モデルの検討—」
発表3：生駒智一（立命館大学・院）（調整中）
「三金時代における金鍾泌の存在意義～接着剤としての金鍾泌」
討論1：川口智彦（日本大学）
討論2：文京洙（立命館大学）
第2部：「朝鮮半島をめぐる国際関係」（16時20分～17時50分）

趣旨

昨年まで北朝鮮の核・ミサイル開発が国際社会の重要な懸案として提起され、米朝間において軍事的衝突の可能性が指摘されていたことを鑑みると、今年にはいつから朝鮮半島をめぐる国際関係が大きな転換点を迎えていることは次の3つの合意がなされたことから確認できよう。まず、11年ぶりに南北首脳会談が板門店で開催されて、年内の「終戦宣言」や「完全な非核化」を確認した「板門店宣言」が4月27日に採択された。次に、6月12日には史上初の米朝首脳会談がシンガポールで開催されて、「新しい米朝関係」の構築と「朝鮮半島の完全な非核化」に関する合意が米朝首脳間においてなされた。さらに、文大統領と金正恩委員長は今年3度目となる南北首脳会談を9月18日から平壤で実施し、「軍事的敵対関係の終息」、「民族経済の均衡発展」、「朝鮮半島の完全な非核化」における南北の協力などを謳った「平壤共同宣言」を採択した。

こうした朝鮮半島をめぐる国際関係の変化は、戦後の北東アジアの国際関係を規定して

きた基本的枠組みを大きく変更する可能性が存在している一方で、国際社会における最大の焦点となってきた「朝鮮半島の非核化」については依然として不透明な状況にある。また、こうした南北および米朝間の合意とは別に、金正恩委員長は南北首脳会談や米朝首脳会談と歩調をあわせるかのように中国を訪問し、中朝首脳会談を実施したり、自民党総裁として三期目を迎える安倍首相も日朝首脳会談の開催を模索したりするなど、各国による朝鮮半島を取り巻く積極的な外交が繰り広げられている。

本分科会では、朝鮮半島問題に精通した各分野の専門家による分析を中心としたシンポジウム形式のパネルを構成する。まず、本分科会のパネリスト 5 名はそれぞれの専門や関心から朝鮮半島をめぐる国際関係について問題提起をする。次に、それぞれの問題提起を受けて、パネリスト間の討論やフロアからの質疑応答を受けた全体討論を実施する。本分科会は、現在、最も関心を集めている朝鮮半島情勢について、外交、政治、経済、歴史、社会の専門家による総合的な分析・討論の場を形成する。なお、本分科会は北東アジア学会と立命館大学アジア・日本研究所「北朝鮮問題をめぐる総合的研究」プロジェクトとの共同開催とする。

- 座長（司会） 文京洙（立命館大学）
問題提起 1 中達啓示（立命館大学）
問題提起 2 崔正勲（立命館大学）
問題提起 3 朴一（大阪市立大学）
問題提起 4 川口智彦（日本大学）
問題提起 5 今村弘子（富山大学）（調整中）

問い合わせ先 立命館大学アジア日本研究所 崔正勲
choi-j-h アットマーク fc.ritsumei.ac.jp